オーディオインターフェイス アプリケーション別セットアップガイド

MOTU オーディオインターフェイス - FireWire / USB MK3 世代-

このセットアップガイドは、MK3世代のMOTUオーディオインターフェイスを対象とした設定ガイドとなります。エフェクトを

内蔵している第3世代: 896mk3 (FW)、828mk3 (FW)、Traveler mk3、Ultralite mk3 (FW)、第4世代: 896mk3 Hybrid、828mk3

Hybrid、Track 16、Ultralite mk3 Hybrid などのモデルが該当します。



設定に関するご注意:

入出力に関するご注意

多くの MOTU オーディオインターフェイスは、アナログ出力(1~8 など)とは別に、メイン出力、ヘッドフォン出力を装備し ます。同様にアナログ出力(1~8 など)とは個別にマイク入力や楽器入力が個別に用意されています。これらの入出力は、 DigitalPerformer 上では、MAIN OUTPUT 1-2、ANALOG OUTPUT 1-2、MIC/INSTRUMENT 1、ANALOG INPUT 1 など、本体に 印字されているラベルと連動していますが、他社の DAW では、単純に OUTPUT 1-2、OUTPUT 3-4、INPUT 1、INPUT 2 と表 示される場合があります。特にメイン出力はモデルによっては、メイン出力はアナログ出力の後に配置されていることが多い ため、DAW の初期設定ままではメイン出力から音が出力されない場合がありますので、ご注意ください。詳細に関しましては このガイドのアプリケーションごとの解説に記載しています。

マイク入力や楽器入力に関するご注意

MK3世代のMOTU FireWire/USBオーディオインターフェイスのマイク/楽器入力はXLRと1/4"フォーンの両方の入力に対応 したコンボ端子を使用しています。XLR での接続マイク入力専用となります。この接続によって、自動でマイクプリアンプが 有効となります。1/4"フォーンで入力した場合、楽器やライン入力となりますので、マイクを接続してのご利用には適してい ません。また、828mk3などモデルでは、XLRコンボ入力は、マイクと楽器入力専用に設計されていますので、ライン入力には 適していませんのでご注意ください。



*XLR入力はマイク専用です。

複数台の同時利用

MOTU オーディオドライバは、MOTU DigitalPerformer でのご利用、Windows 環境の ASIO ドライバで複数台の同時利用が可能 なように設計されています。

ただし、Windows環境においては、WindowsシステムのFireWireコントローラーのドライバの仕様やUSBポートの仕様によって、 複数台での接続には適していない場合がありますので、ご注意ください。

バッファサイズ設定

バッファサイズが自由に設定可能なソフトウェア(Ableton Live など)では、256 や 512 など 64 の倍数で設定します。市販の プラグインでは、64 倍数以外の設定をおこなった場合、正常動作しない場合がありますので、ご注意ください。

コントロールソフトウェアに関して

MOTU オーディオインターフェイスには、基礎的な設定ユーティリティ: MOTU Audio Setup (Mac) / MOTU Audio Console (Windows) とミキシングコントロールソフトウェア: CueMix FX の2つの設定ソフトウェアが用意されています。マイクア イコンの MOTU Audio Setup / MOTU Audio Console には、General タブでソフトウェアドライバー、モデルごとに用意されたタ ブでは、ハードウェアのファームウェア (MOTU オーディオインターフェイスのシステム) バージョンが表示されています。



MOTU Audio Setup.app

Mac OS X 環境でのご注意

ハードウェアタブ上に、主となるステレオ出力音量を Mac OS X の再生ボリュームコントロールとリンクする設定が用意されて

います。このオプションが有効の場合、特定の出力がミュートされたり、他の出力と音量が異なったりするがありますので、

ご注意ください。

Clock Source Internal ‡ Default Stereo Input Mic/Instrument 1 - 2 ‡ Default Stereo Output Main Out 1 - 2 ‡ Phones Assign Main Out 1 - 2 ‡ Optical Input Bank A ADAT Optical ‡ Optical Output Bank B ADAT Optical ‡ Optical Output Bank B ADAT Optical ‡ Main Out Assign Main Out 1-2 ‡ Return Assign Main Out 1-2 ‡	Sample Rate	44100	Å
Default Stereo Input Mic/Instrument 1 - 2 \$ Default Stereo Output Main Out 1 - 2 \$ Phones Assign Main Out 1 - 2 \$ Optical Input Bank A ADAT Optical \$ Optical Output Bank A ADAT Optical \$ Optical Input Bank B ADAT Optical \$ Optical Output Bank B ADAT Optical \$ Optical Output Bank B ADAT Optical \$ Optical Output Bank B ADAT Optical \$ Main Out Assign Main Out 1-2 \$ Return Assign Main Out 1-2 \$	Clock Source	Internal	*
Default Stereo Output Main Out 1 - 2 ‡ Phones Assign Main Out 1 - 2 ‡ Optical Input Bank A ADAT Optical ‡ Optical Output Bank A ADAT Optical ‡ Optical Input Bank B ADAT Optical ‡ Optical Output Bank B ADAT Optical ‡ Optical Output Bank B ADAT Optical ‡ Main Out Assign Main Out 1-2 ‡ Return Assign Main Out 1-2 ‡	Default Stereo Input	Mic/Instrument 1 - 2	÷
Main Out 1 - 2 Image: Constraint of the system Optical Input Bank A ADAT Optical Image: Constraint of the system Optical Output Bank A ADAT Optical Image: Constraint of the system Optical Input Bank B ADAT Optical Image: Constraint of the system Optical Output Bank B ADAT Optical Image: Constraint of the system Optical Output Bank B ADAT Optical Image: Constraint of the system Main Out Assign Main Out 1-2 Image: Constraint of the system Return Assign Main Out 1-2 Image: Constraint of the system	Default Stereo Output	Main Out 1 - 2	÷
Optical Input Bank A ADAT Optical ‡ Optical Output Bank A ADAT Optical ‡ Optical Input Bank B ADAT Optical ‡ Optical Output Bank B ADAT Optical ‡ Main Out Assign Main Out 1-2 ‡ Return Assign Main Out 1-2 ‡	Phones Assign	Main Out 1 - 2	\$
Optical Output Bank A ADAT Optical \$ Optical Input Bank B ADAT Optical \$ Optical Output Bank B ADAT Optical \$ Main Out Assign Main Out 1-2 \$ Return Assign Aain Out 1-2 \$ Main Out 1-2 \$ M	Optical Input Bank A	ADAT Optical	*
Optical Input Bank B ADAT Optical ‡ Optical Output Bank B ADAT Optical ‡ Main Out Assign Main Out 1-2 ‡ Return Assign Main Out 1-2 ‡	Optical Output Bank A	ADAT Optical	÷
Optical Output Bank B ADAT Optical ‡ Main Out Assign Main Out 1-2 ‡ Return Assign Main Out 1-2 ‡	Optical Input Bank B	ADAT Optical	÷
Main Out Assign Main Out 1-2 ‡ Return Assign Main Out 1-2 ‡	Optical Output Bank B	ADAT Optical	*
Return Assign Main Out 1-2 ‡	Main Out Assign	Main Out 1-2	÷
	Return Assign	Main Out 1-2	*

Windows 環境でのご注意

Windows環境において、MOTU Audio Consoleは他のオーディオソフトウェアと個別に起動することはできません。MOTU Audio

Console は、オーディオアプリケーションの ASIO コントロールパネルボタンからアクセスします。

(ハードウェア設定)

*ボタン名の表記は、ご利用の DAW ソフトウェアによって異なります。

最新のドライバ

最新の MOTU オーディオドライバは、MOTU のウェブサイトから無償でダウンロードすることができます。

FireWire / USB ドライバは、全モデル共通です。

Universal Audio Installer (ユニバーサルオーディオインストーラー)

http://www.motu.com/download/



ドライバダウンロードに関するご注意

MOTUのFireWire / USB ドライバのダウンロードページには、ドライバ以外にファームウェアアップデート(Firmware Update)が

モデル別に用意されています。これらのアップデータはMOTUオーディオインターフェイスをコンピュータで動かすためのド

ライバではございませんので、ご注意ください。

ミキシング機能

MK3世代の MOTU オーディオインターフェイスは、複数のバスを装備したモニターミキサー(CueMix)を装備します。この 機能は、ダイレクトモニターやモニターミキシングなど様々な用途に活用することができます。例えば、ライブステージなど のモニターミキシングに使用する場合、メイン出力は観客向けのシーケンスサウンド、ヘッドフォン出力はドラマーのための クリックをミックスしたサウンド、他の出力は、ギタリスト、ベーシスト、ボーカリストのためのモニターミックスをそれぞ れ設定することができます。



ダイレクトモニター

マイクや楽器のレコーディングをおこなう際のレーテンシー(コンピュータベースのデジタルレコーディングシステム固有の

信号の遅れ)を排除することができます。

設定方法は次の通りです:

DAW ソフトウェアのモニター設定をオフにします。*アプリケーション側の 設定は各アプリケーションの解説に記載してい

ます。ここでは、CueMix側の設定について記載します。

また、DigitalPerformerでは、特別なケース以外、DP 側で制御をしますので、CueMix 側で設定をおこなう必要はありません。

CueMix FX ソフトウェアを起動します。



MIXIES タブをクリックし、ミックスバスの出力がソフトウェアのメイン(またはモニター)出力と同じであることを確認しま

す。



モニターをするチャンネルの MUTE ボタンをオフにします。



チャンネルフェーダーと DAW ソフトウェアのマスターフェーダー (またはモニターフェーダー) を調節しながら、音量バラン

スを設定します。*ここでの音量設定は録音の音量には影響しません。



【追記】 リバーブを装備しているモデルは、コンピュータに負荷をかけること無く、モニターのみにリバーブ処理を施すことができます。 詳しくは各モデルのマニュアルの CueMix ソフトウェアの項目に記載しています。

DSP エフェクト

MK3世代のMOTUオーディオインターフェイスは、入出力のすべてに高品位のEQとコンプレッサーを装備します。これらの

エフェクトは、DigitalPerformer に装備された定評のプラグインをオーディオインターフェイス内部で処理をしますので、コン

ピュータに負担をかけること無く、高度な音声処理をおこなうことができます。



入力においては、レコーディング時のレベル過多による歪みを防いたり、事前に不要な帯域をカットしたりすることができま

す。出力段では、再生環境にあわせた音質補正をおこなったり、モニター環境の改善をしたりすることができます。

解析ツール

MK3世代のMOTUオーディオインターフェイスには、高度な信号解析ツールが装備されています。これらのソフトウェアツー

ルを活用することで、より高度で正確なレコーディングやモニター環境の補正をおこなうことができます。



EQ 設定の拡大表示も可能な FFT アナライザー



ピッチ検出の表示幅の広さで倍音成分の量(ギター弦の寿命)を確認できるインストゥルメントチューナー

Ableton Live

*このガイドでは Ableton Live 9 を例に解説します。

オーディオドライバの設定

デバイスの設定

Live	ファイル	編集	作成	表示	オプ	ション	ヘルプ	\$
Live	について			_	_			
環境	設定	ж,	Bar 🔻					
サー	ビス	•		_		1 MIDI		21
Live	を隠す	жΗ						
その	他を隠す	₹ #H	ick		- 11			
すべ	てを表示							
Live	大松 7	*0			- 11			
Live	- 2#S]	њQ				-		
Aax for Live		abinet			_ 11			
	100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100 - 100							

Liveの環境設定の Audio タブで MOTU オーディオドライバを設定します。

Mac OS X: Live メニュー > 環境設定

入力デバイスと出力デバイスの両方で、メニューから MOTU オーディオデバイス(モデル名)を選択します。



Windows:オプションメニュー>環境設定

ドライバタイプのメニューから ASIO、デバイスから MOTU Audio ASIO を選択します。

live 環境設定		×
Look Feel Audio	・ オーディオを有効にする 違訳します。その後、各	こは、オーディオドライバとオーディオ出力デバイスを 入出力をチャンネル設定ボタンを使って設定します。
MIDI Sync	オーディオデバイス	[ASIO
File Folder	オーディオデバイス 【チャンネル設定	MOTU Audio ASIO マ 入力設定 出力設定
Library	ハードウェア設定	(ハードウェア設定)

バッファサイズの設定

Mac環境ではバッファサイズは、Audio環境設定画面内のバッファサイズの項目でおこないます。



*設定値が自由におこなえますが、64以上の64の倍数で設定をします。

Windows環境では、Audio環境設定画面内 ASIO コントロールパネルボタンから、MOTU Audio Console にアクセスして、設定を





サンプリングレート設定

サンプリングレートの設定は、入力/出力サンプリングレートの項目でおこないます。



チャンネル(入出力)設定

Ableton Live は、コンピュータへ負担を最小限に留めるため、初期設定では1組ずつのステレオ入力と出力のみが有効になって

います。



必要に応じて、Audio環境設定画面内の入力設定と出力設定ボタンで、設定画面を開いて、入力や出力を有効にします。

入力	没定	出力設	定
Liveのトラックで使用可能に設定したいオーディス アはすべて、ステレオ入力1つおよびはたはモノラ してCPU負荷を低減できます。	tハードウェア入力を選択してください。入力ペ 5ル入力2つとして使用できます。入力を無効に	Liveのトラックで使用可能に設定したいオーディオ. アはすべて、ステレオ出力1つおよび/またはモノラ/ してCPU負荷を低減できます。	ハードウェア出力を選択してください。出力べ し出力2つとして使用できます。出力を無効に
1 (mono) & 2 (mono)	1/2 (stereo)	1 (mono) & 2 (mono)	1/2 (stereo)
3 (mono) & 4 (mono)	3/4 (stereo)	3 (mono) & 4 (mono)	3/4 (stereo)
5 (mono) & 6 (mono)	5/6 (stereo)	5 (mono) & 6 (mono)	5/6 (stereo)
7 (mono) & 8 (mono)	7/8 (stereo)	7 (mono) & 8 (mono)	7/8 (stereo)
9 (mono) & 10 (mono)	9/10 (stereo)	9 (mono) & 10 (mono)	9/10 (stereo)
11 (mono) & 12 (mono)	11/12 (stereo)	11 (mono) & 12 (mono)	11/12 (stereo)
13 (mono) & 14 (mono)	13/14 (stereo)	13 (mono) & 14 (mono)	13/14 (stereo)
15 (mono) & 16 (mono)	15/16 (stereo)	15 (mono) & 16 (mono)	15/16 (stereo)
17 (mono) & 18 (mono)	17/18 (stereo)	17 (mono) & 18 (mono)	17/18 (stereo)
19 (mono) & 20 (mono)	19/20 (stereo)	19 (mono) & 20 (mono)	19/20 (stereo)
21 (mono) & 22 (mono)	21/22 (stereo)	21 (mono) & 22 (mono)	21/22 (stereo)
23 (mono) & 24 (mono)	23/24 (stereo)	23 (mono) & 24 (mono)	23/24 (stereo)
25 (mono) & 26 (mono)	25/26 (stereo)	25 (mono) & 26 (mono)	25/26 (stereo)
27 (mono) & 28 (mono)	27/28 (stereo)	27 (mono) & 28 (mono)	27/28 (stereo)
29 (mono) & 30 (mono)	29/30 (stereo)	29 (mono) & 30 (mono)	29/30 (stereo)
31 (mono) & 32 (mono)	31/32 (stereo)		

入出力の表記について

Ableton Live では、入出力は純粋に IN 1、IN 2、OUT 1/2、OUT 3/4…と表示します。

多くの MOTU オーディオインターフェイスでは、メイン出力がアナログ出力の後に設定されています。例えば、アナログ出力が

8つ装備されている 828mk3の場合、メイン出力は 9/10 となっています。 ただし、 この関係はご利用環境によって異なるケー

スがあるため、次の方法で確認をします。

CueMix FX ソフトウェアを起動し、画面右側の METERS タブをクリックして、すべての入出力のレベルメーターを表示します。



Liveの Audio 環境設定で、テストトーンの出力を有効にします。



LiveのAudio環境設定の出力設定で、ステレオ出力を1つずつ有効にして、有効にした出力をCueMix FXのレベルメーターで

確認します。MAINのメーターが振れた箇所が、メイン出力のLive上での出力チャンネルになります。

入力に関しまして、一部のモデルでは、マイク/楽器入力とアナログライン入力が別に用意されています。例えば、828mk3では、

最初の2つの入力が MIC/楽器入力で、アナログライン入力1~8は Live 上では3~10 となり、その後デジタル入力などが続き

ます。Track 16 では最初の2つがマイク入力、3/4 が楽器入力、アナログライン入力は 5/6 となります。

Live の Audio 環境設定の入力設定で、一旦すべての入力を有効にし、実際に信号を入力しながら、Live のトラック入力設定上

で確認をします。

*Liveの入力チャンネル設定のメニュー上の小さなレベルメーターで信号の有無を確認できます。

Audio From Ext. In ▼ 1 ▼ Monitor In Auto Off Audio To Master ▼	Audio From Ext. In T 2 T Manton In Auto 10ff Audio T Master T
-Inf → 6 → 6 - 12 3 - 24 S • 36 • 60	 Inf 6 0 6 12 12 24 36 60

トラック入出力設定

オーディオトラックの入力デバイスを EXT. IN に設定します。



モノラル入力の場合、デバイス選択の下のチャンネル選択の項目からモノラル(例えば1/2から1や2)に設定します。



続けて、マスタートラックの出力チャンネルを設定します。



CUE アウト(クリックや DJ、録音用のモニターバス)をマスター出力とは別の出力に設定する場合、CUE の出力チャンネルを

設定します。



LiveのモニターモードをCUEに設定する場合、CUEアウトをマスターアウトとは別のチャンネルに設定した後、モニターボリュー

ム (ヘッドフォンアイコンのノブ) 横の SOLO スイッチを押して、CUE モードにします。



オーディオやインストゥルメントトラックの出力をマスター以外の出力に設定する場合、トラックの(Audio Toの箇所)出力

デバイスを EXT. OUT に設定して、下のチャンネル設定で任意の出力にします。



入出力の設定が見えない場合は、マスタートラック付近(画面右下)のI・Oボタンをオンします。



ダイレクトモニター設定

MOTU オーディオインターフェイスのモニターミキサー機能を利用したレーテンシーの無いモニタリングをおこなう場合、Live

のトラックのモニター設定を OFF にします。



CueMixの設定に関しましては、このガイドのダイレクトモニターの項目に記載しています。

MOTU DigitalPerformer

*このガイドでは DP8 (Mac 版) を例に解説します。

オーディオドライバの設定

デバイスの設定

セットアップ>オーディオシステムの設定>ハードウェアドライバーの設定



Mac OS X 環境の場合、画面上のリストから、MOTU オーディオインターフェイス(モデル名)を選択します。



Windows 環境の場合、ASIO Driver: の項目から MOTU Audio ASIO を選択します。



バッファサイズの設定

バッファサイズは、ハードウェアドライバーの設定内のバッファサイズの項目でおこないます。



Windows 版の場合、Configure Driver をクリックして、MOTU Audio Console で設定をします。





サンプリングレート設定

サンプリングレートの設定は、サンプルレートの項目でおこないます。



複数のオーディオインターフェイスの設定

Mac環境では、複数の MOTU オーディオインターフェイスを同時利用する場合、command キーを押しながら、選択をします。 *最大4台まで選択することが可能です。また、他社製品と同時に設定することも可能ですが、不測のトラブルを招く可能性が ありますので、基本おすすめできません。

設定後、画面下のストバッファマルチプライヤーの設定値を有効にしたオーディオインターフェイスの数分に設定します。例 えば、2台使用の場合は設定値=2にします。この項目はMac OS Xの Core オーディオドライバを並列処理するための設定で

す。この設定によって、1台使用時とほぼ同等のCPU負荷で動作することができます。

CoreAudio	•		
内蔵入力			
内藏出力			
Avid CoreAudio Device			
Pro Tools 機器セット			
MOTU 828mk3			
機器セット		¥	
マスターデバイス:	MOTU 828mk3	-	
サンプルレート:	44100	*	
クロックモード:			
MOTU 828mk3 🔹	Internal	•	
パッファーサイズ:	256		
くトパッファーマルチプライヤ:	1		
作業優先:	N-1		

Windows 環境では、ASIO ドライバ1つで、最大4台までの MOTU オーディオインターフェイスを扱うことができますので、

DP上では特に設定はございません。ただし、正常にクロック同期をおこなうには FireWire 接続で、ご利用いただく必要があり

ます。また、ご利用環境のコンピュータの構成や仕様によっては正常動作しない場合がありますので、予めご注意ください。

入出力の表記について

DigitalPerformerは、オーディオインターフェイスの入出力や、ソフトウェア音源の出力、内部バスなどをバンドルという形で扱います。初期設定では、出力のバンドルと入力のバンドルは、1組のステレオ(2つのモノラル)となっています。オーディオバンドルはトラックの入力および出力のメニューで追加することができます。

事前に設定をすることも可能です。この場合スタジオ>バンドルの入力と出力のタブで設定をすることができます。



バンドル設定画面で、入出カポートの名称を、MOTU インターフェイスのポート名ではなく、作業環境に合わせて設定するこ

とができます。例えば、マイク入力1は、StudioProject C1(マイクの名前)、ATB DIR 1(ミキサーのチャンネルダイレクト

アウト)など、パッチベイのラベルのように設定することができます。



バンドル設定は、入力(インプット)と出力(アウトプット)個別でおこないます。



出カバンドル設定では、一番上の出カバンドルが、プロジェクトデフォルトの出力となり、波形編集やサウンドバイト画面な

どのオーディオを試聴する場合の出力となります。バンドルの順番を変更するには、画面左端のムーブの項目のマウスのドラッ

グ操作でおこないます。

インプット	アウトブット	バス	インストルメント					MIDIデバ			S
					91	g 2	93	4 9	95	96	
					- Par	der	der	der	der	der	
ムーブ 名称			モデル		A	A	A	¥	A	A	
			ステレオ		L	R					
Analog 3-4			ステレオ				L	R			
			ステレオ						L	R	
			ステレオ								
			ステレオ								
			ステレオ								
\$ S/PDIF 1-2			ステレオ								
C ADAT Optical			ステレオ								
			ステレオ								

トラック入出力設定

オーディオトラックまたは AUX のインプットの項目で、入力を設定します。目的の入力ポートがリストに表示されていない場

合は、新規ステレオ(モノ)バンドルから設定します。



出力の設定は、トラックのアウトプットの項目で設定をします。目的のポートがリストに無い場合、新規ステレオ(モノ)バン

ドルから選択します。

	F 46	Mic/Instrument 1 💻 🕨	Main Out 1-2 1 ・ オーディオ-1
	F 46	Mic/Instrument 2	Main Out 1-2 1 ・ 📕 ~ オーディオ-2
	₽ 4€	Mic/Instrument 1	
	E 46	Mic/Instrument	Analog 1-2 (ステレオ) Analog 3-4 (ステレオ)
	F 45	Analog 1-2 🔲 🕨	Analog 5-6 (ステレオ) Analog 7-8 (ステレオ)
\$	E #6	Analog 1-2 💻 🕨	✓ Main Out 1-2 (ステレオ) Phones 1-2 (ステレオ)
			S/PDIF 1-2 (ステレオ)
			ADAT Optical A 1-2 (ステレオ)
			ADAT Optical A 3-4 (ステレオ)
			ADAT Optical A 5-6 (ステレオ)
			ADAT Optical A 7-8 (ステレオ)
			ADAT Optical B 1-2 (ステレオ)
			ADAT Optical B 3-4 (ステレオ)
			ADAT Optical B 5-6 (ステレオ)
			ADAT Optical B 7-8 (ステレオ)
			新規ステレオパンドル ▶
			新規Auxトラック(新規ステレオパンドル経由)
			Non-construction of the second s

*新規バンドル操作で追加された入出力は、バンドル設定画面にも反映します。

複数のオーディオインターフェイスを利用する場合、入出力の名称はそれぞれのデバイス名で表示します。例えば、828mk3

とUltraLiteを同時に使用した場合、828mk3のマイク入力は、828mk3 MIC/INSTRUMENT 1、UltraLiteのアナログ入力 3 は、

UltraLite Analog Input 3 と表示します。896mk3 を 2 台使用した場合は、896 mk3 #1 Analog Input 1、896mk3 #2 Analog Input

1…と表示します。

これは、同じ MOTU 社製品ならではのアドバンテージです。

ダイレクトモニタリング設定(Mac環境)

DigitalPerformer では、最新の MOTU オーディオインターフェイスを直接コントロールして、レーテンシーの無いレコーディン

グモニターを実現します。基本すべてのMK3世代のモデルはDPのダイレクトモニターコントロールに対応します。

セットアップ>オーディオシステムの設定>インプットモニタリングモード...



*この機能は Mac 版のみです。Windows 版は ASIO ドライバを使用するため、仕様上、装備していません。

初期設定では、ハードウェアのダイレクトモニター(MOTU ではダイレクトハードウェアプレイスルーと呼びます)が有効に

なっています。確認をするには、セットアップ>オーディオシステムの設定>モニタリングモードにアクセスします。



*DPのダイレクトハードウェアプレイスルーモードでは、CueMixを操作する必要はありません。

ただし、このモードでは、DigitalPerformer内のエフェクト処理を通じたサウンド、一部の他社製プラグインで処理をしたサウン

ドを聴くことができません。

この場合、モニタリングモードを録音選択したトラックを経由に設定します。



*この際のモニターレーテンシーはバッファイサイズの設定に依存します。

Windows 環境のダイレクトモニタリング設定

DPのトラックのモニター(トラックのスピーカーアイコン)をオフにして、CueMix ソフトウェアで、モニター設定をします。



CueMixの設定に関しましては、このガイドのダイレクトモニターの項目に記載しています。

モニタリングモード

DPでは、モニターをする際のモードを設定することができます。

スタジオ > オーディオパッチスルー のサブメニューでオプション設定を選択して、設定をします。通常はオートにしておき

ます。

プロジェクト	スタジオ セットアップ テキスト	ウインドウ	ヘルプ 🤷 🕐
	コントロールパネル	仓X st2	2
	カウンター	<u>کا</u>	
	イ ツール	企O Hz	
00 マウト 411000 マ	ショートカット	τx .7	<i>1</i> − ▼
00 7.7 4 1000	バックグラウンドプロセッシング	仓R ind	
	オーディオパフォーマンス	<u></u> ΔΥ	
ー ソング	メーターブリッジ	۵Z	
	MIDI+-	 ሰ װ א ג	1111000 🖸 1111000 🖸
	ステップレコード	#8	weeks waar and mees
	POLAR	ûР	13 14 15 16 1 1 1 1
	スナップ情報	^ଫG	
	カーソル情報	<u>^⊕C</u>	
	イベント情報	^E	
	セレクション情報	~	
	サウンドファイル情報	^て第A	
	トラックセレクタ	企業T	
	トラック情報		
	チャンネルストリップ		
	オーディオモニタ	ΰA	
	MIDIモニタ	仓W	
	MIDIマシンコントロール	ΩН	
	インプットクオンタイズ	소아	
	バンドル	<mark> </mark>	
	オーディオ設定	A.	
	MIDIデバイスグループ	아	
	MIDIデバイスのリマップ		
	クリック	₩5	
	クリック設定	10.00	
	マルチレコード	^ ጉ ፡፡	
	✓ MIDIパッチスルー		1
	オーディオパッチスルー	►	オート
	発音中のMIDIノートを停止	¥1	プレンド
	全てのクリッピングインディケータ	を解除	インブットのみ
	±(0)))(2))(1)(1)	C HEN	オフ

Windows 環境で、CueMix を利用したダイレクトモニタリング設定の場合、オフにします。

Apple Logic

*このガイドではLogic Pro9を例に解説します。

オーディオドライバの設定

デバイスの設定

Logic Pro > 環境設定 > オーディオ…



デバイス 画面上の出力デバイスと入力デバイスのメニューリストから、MOTU オーディオインターフェイス(モデル名)を選

択します。

0	環境設定	
		↓ 1 → 1 → 1 → 1 → 1 → 1 → 1 → 1 → 1 → 1
デバイス 一般 1/0 割り当て サンフ	NIFTS MP3 Utyh	
Core Audio		
≥ 有効		
必要なシステムメモリ	69.0 MB	
出力デバイス	MOTU 828mk3	:
入力デパイス	MOTU 828mk3	-
1/0 バッファサイズ	256	: +> JN
	結果のラウンドトリップレイテンシ:12.5 ms	
レコーディングディレイ	· · · · · · · · · · · · ·	
	☑ ユニバーサル・トラック・モード	
	24 ビットレコーディング	
	☑ ソフトウェアモニタリング	
	✓ 個別のモニタリングレベル 録音に対応したチャンネルストリップ用	



バッファサイズの設定

I/Oバッファサイズの項目でおこないます。

必要なシステムメモリ:	69.0 MB	
出力デバイス:	MOTU 828mk3	:
入力デパイス:	MOTU 828mk3	:
I/O バッファサイズ:	256	: サンプル
	結果のラウンドトリップレイテンシ:12.5 ms	
レコーディングディレイ:	<u> </u>	
	▼ フ=パーサル・トラック・モード	

サンプリングレート設定

サンプリングレートの設定は、Logicプロジェクト設定でおこないます。

ファイル > プロジェクト設定 > オーディオ…



画面上のサンプルレート:の項目で設定をします。



デフォルトの出力設定

I/O割り当て画面のステレオの項目で、デフォルトの出力を設定します。



入出力の表記について

Logic では、入出力は純粋に Input 1、Input 2、Output 1-2、Output 3-4… と表示します。

多くのMOTU オーディオインターフェイスでは、メイン出力がアナログ出力の後に設定されています。例えば、アナログ出力が

8つ装備されている 828mk3の場合、メイン出力は 9-10 となっています。この問題を解決するには、Logicの I/O ラベル設定

で対応します。設定方法は次の通りです:

オプション > オーディオ > I/O ラベル・・



画面上の必要なすべてのモノラルとステレオ入出力の箇所を、ドライバにより提供に設定します。

000	🖹 te	est - 1/0 ラベル			1
装置: Core Audio	: Utyr +				
チャンネル	ドライバにより提供	ユーザ	長	短	
O Input 1	Mic/Instrument 1	0	-		0
O Input 2	Mic/Instrument 2	0	Ŧ	-	
O Input 3	Analog 1	0	-	121	
O Input 4	Analog 2	2	-	-	
O Input 5	Analog 3		-	-	
O Input 6	Analog 4		-	-	
O Input 7	Analog 5	0	-	12	
O Input 8	Analog 6	0	-	-	
O Input 9	Analog 7	0	-	-	
O Input 10	Analog 8	0	-	-	
() Input 11	O Reverb 1	0		12	
Input 12	O Reverb 2	0	-	-	

入力に関しまして、一部のモデルでは、マイク/楽器入力とアナログライン入力が別に用意されています。設定をする際、入力 と出力のみならず、モノラルとステレオチャンネルは、個別の設定となっていますので、リストの最初にあるモノラルチャン ネルのみを設定した場合、ステレオチャンネルには設定は反映されませんので、ご注意ください。また、Logicの仕様上、Stereo Output だけは変更できません。予めご留意ください。

トラック入出力設定

入出力の設定は、トラックを新規に追加した際に設定できます。

すでに作成されているオーディオ、AUXまたはソフトウェア音源トラックのI/Oの項目で、設定をすることができます。



ダイレクトモニタリング設定

Logic Pro > 環境設定 > オーディオ…

デバイス画面上のソフトウェアモニタリングの項目のチェックを外します。



オプション > オーディオ > 自動入力モニタリング 設定のチェックを外すことでもソフトウェアモニタリングをバイパスにす

ることができます。



CueMixの設定に関しましては、このガイドのダイレクトモニターの項目に記載しています。

AVID ProTools

*このガイドでは ProTools 10 (Mac 版)を例に解説します。

オーディオドライバの設定

デバイスの設定

設定 > プレイバックエンジン…



デバイス 画面上のメニューリストから、MOTU オーディオインターフェイス(モデル名)を選択します。

	MOTU 828mk3	\$		
設定				
	✓H/W バッファサイズ: (512サンプル	\$	
	ホスト プロセッサ:	2 プロセッサ	\$	
	CPU 使用限度:	85 %	\$	
	ホスト エンジン:	☑ 再生/録音中	はエラーを無視	
		(クリックや	ポップの原因にな	よる可能性あり)
		- 1/0L1	テンシを最小限に	する
	遅延補正エンジン:	なし	\$	
ブラグイン スト	リーミング バッファ			
サイズ: レベノ	↓ 2 \$			
オーディオ	ドライブのコンテンツのスト	リーミングに最近	適化(より多くの	システムメモリが必要
				OK

*Windows 版の場合は、MOTU Audio ASIO を選択します。

この際、ホストプロセッサの項目で、ご利用のコンピュータに実装されている CPU プロセッサ/コア数よりも最低でも1つ少

なく設定することをおすすめいたします。

MOTU 828mk3	÷]	
设定		
H/W バッファサイズ	512サンプル	\$
ホスト プロセッサ	2 プロセッサ	\$
CPU 使用限度	85 %	•
ホスト エンジン	. ☑ 再生/録音中に	はエラーを結視
	(クリックやオ	ポップの原因になる可能性(水力)
	- I/0レイテ	テンシを最小限にする
遅延補正エンジン	になし	\$
プラグイン ストリーミング バッファ		
オイズ: レベル2 =		
〕 オーディオ ドライブのコンテンツのス	トリーミングに最適	商化(より多くのシステムメモリが必

例:4コアプロセッサの場合、3プロセッサに設定します。

これは、CueMix ソフトウェアを表示しながら設定や操作の際に、ProTools がすべてのプロセッサを占有して、コンピュータ全体の動作が不安定にならないための処置です。また、EastWest 製品など、多くのソフトウェア音源(ソフトウェアインストゥルメント)でもこの設定を推奨しています。



バッファサイズの設定

H/W バッファサイズの項目でおこないます。

	M	OTU 828mk3	\$			
設定						
	H/W /	、 ッファサイズ	512サンプル	\$		
	ホス	トプロセッサ	2 プロセッサ	\$		
		CPU 使用限度	: 85 %	\$		
	木	スト エンジン	: 🗹 再生/録音	中はエラーを	無視	
			(クリック	やポップの周	限になる可	能性あり)
			1/02-	「テンシを最	小限にする	
	遅延	補正エンジン	になし		\$	
ブラグイン ス	トリーミング	ドッファ				
サイズ: レ	ベル 2	\$				
] オーディオ	ドライブのコ	ンテンツのス	トリーミングに	_{最適化} (より	多くのシス	Fムメモリが必要)

サンプリングレート設定

ProTools では、サンプリングレートの設定は、セッションを新規作成する際に設定します。

\$	新規セッション	
)テンプレートからセッションを作成.		
)空のセッションを作成		
ミッションパラメータ		
オーディファイルタイプ:	サンプルレート:	
BWF (.WAV) \$	44.1 kHz	÷
ビットデプス:	I/O設定:	
○ 16ピット	前回使用された形式	÷
● 24ピット		
○ 32ビット浮動小数点数		
□ インターリーブ		
	キャンセル	OK
	477610	

デフォルトの出力設定

設定 > I/O…



I/O 設定画面のアウトプットの項目で、デフォルトの出力を設定します。



入出力の表記と設定について

ProTools では、オーディオバスの設定を予め設定しておく必要があります。また、オーディオインターフェイスを切換えた場合でも以前の設定がそのまま残っている場合がありますので、入出力の設定を再度おこなう必要があります。

設定 > I/O…

インプットとアウトプットの項目で、オーディオインターフェイス入出力を設定します。

			_		_	_	_	1/0	0 設)	定		_		_	_	_			_	_	_			
c .		לעד 🔤	ツト	アウト	ブット	パフ	र न	(ンサ-	-ト	বন	クプリ	アン	ブ	H/W	イン	サート	ディし	11) —	_				-
1	前回保存したセットアッ	ノブを表示									A													
										MC	114	8mk	3											
											3	4												
e.	名前	フォーマット	1 2 1	3 4	nalog 5 6	78	9 10	11 1	2 13	14 15	16 1	7 18	19 2	0 21	22	Optica 23 24	25	26 2	7 28	29 3	0 31	32		
	Mic / Guitar	Stereo	LR	1 d							П	T						T			T			_
►	Line 1-2	Stereo	1	LR																				
	Return 1-2	Stereo			LR																			
			1																					
- 7	#=======																							
1	新しいバス																							
1	新しいサブバス																							
1	パス削除																							
5	777105																							
1	セッションを開いたとき	現在のI/O設定を上	書きする																					
14																								
1	設定インポート	設定エクスオ																	1	+7	ンセ	N	ОК	
																			-					

ここでは、ProToolsで使用する入力と出力バスの設定をおこないます。入出力バスの名称を MOTU オーディオインターフェイ

スの端子名にしておくことで、快適に扱うことができます。

必要な入出カバスを追加し、右側のマトリックスで、該当するオーディオインターフェイスのポートをクリックして、バスと

オーディオインターフェイスの端子のリンク設定をします。



多くの MOTU オーディオインターフェイスでは、メイン出力がアナログ出力の後に設定されています。例えば、アナログ出力が 8つ装備されている 828mk3の場合、メイン出力は9 と 10 となっています。ただし、この関係はご利用環境によって異なる ケースがあるため、次の方法で確認をします。



CueMix FX ソフトウェアを起動し、画面右側の METERS タブをクリックして、すべての入出力のレベルメーターを表示します。

ProTools にオーディオトラックを追加して、オーディオファイルをトラック上にインポートします。

ProToolsを再生してトラック出力の信号レベルを CueMix FXのレベルメーターで確認します。MAINのメーターが振れた箇所が、

メイン出力の ProTools 上での出力チャンネルになります。

入力に関しまして、一部のモデルでは、マイク/楽器入力とアナログライン入力が別に用意されています。例えば、828mk3では、

最初の2つの入力が MIC/楽器入力で、アナログライン入力1~8は Live 上では3~10 となり、その後デジタル入力などが続き

ます。Track 16 では最初の2つがマイク入力、3 と4が楽器入力、アナログライン入力は5 と6 となります。

ProToolsのオーディオトラックの録音ボタンを有効にして、実際に信号の入力とProTools上のトラックの入力設定を切替えなが

ら、ProToolsのトラックのレベルメーターで確認をします。

トラック入出力設定

ProTools セッション上のオーディオ、AUX またはソフトウェア音源トラックの I/O の項目で、設定をすることができます。





ダイレクトモニタリング設定

録音対象のトラックのミュートスイッチをオンにします。



CueMixの設定に関しましては、このガイドのダイレクトモニターの項目に記載しています。

Steinberg Cubase / Nuendo

*このガイドでは Cubase 7 (Mac 版)を例に解説します。

オーディオドライバの設定

デバイスの設定

デバイス > デバイス設定…



Mac環境のの場合、デバイス設定画面上のVST オーディオシステムのASIO ドライバー メニューリストから、MOTU オーディ



オインターフェイス(モデル名)を選択します。

Windows 環境の場合、デバイス 設定画面上の VST オーディオシステムの ASIO ドライバー メニューリストから、MOTU Audio

ASIO を選択します。



CueMix FX ソフトウェアの画面を同時に表示して操作をする場合、バックグラウンド時は ASIO ドライバーを開放する にチェッ

クをいれます。

バッファサイズの設定

VST オーディオシステム下の MOTU オーディオインターフェイス (モデル名/Mac. MOTU ASIO/Win)の項目でおこないます。

- 14	MOTU 828mk3			
パイス	コントロール パネル	入力のレイテンシー:	6.780 ms	
MIDI		出力のレイテンシー:	6.712 ms	
 MIDI ボートの設定 	Internal VI D vi d	11-7		
WST オーディオシステム				
MOTU 828mk3	■ 外部クロック			
トランスポート	■ <i>ばく</i> しカトエニタリング			
タイルディスプレイ				
残り録音時間	ポート リセット			
	1/0 ポートシステム名	表示名	表示	状況
*SD# ビデオブレーヤー	イン Mic/Instrument 1	Mic/Instrument 1	×	オフ
リモートデバイス	イン Mic/Instrument 2	Mic/Instrument 2	×	オフ
クイック コントロール	イン Analog 1	Analog 1	×	オフ
VET System Link	イン Analog 2	Analog 2	×	オフ
vsi system Link	イン Analog 3	Analog 3	×	オフ
	イン Analog 4	Analog 4	×	77
	イン Analog 5	Analog 5	×	77
	イン Analog 6	Analog 6	×	77
	イン Analog 7	Analog 7	×	77
	イン Analog 8	Analog 8		7/
	12 Reverb 1	Reverb 1		7/
	12 Reverb 2	Reverb 2	~	7/
	12 Return 1	Return 1	~	17
	1 Keturn 2	Keturn 2		+7
		S/PDIF 1		+7
	12 3/PDIF 2	3/FDIF 2	~	11
	ヘルプ	[リセット		適用
		(+ + +)	u de ll	0

画面内の コントロールパネルボタンを押して、ASIO バッファサイズの設定画面の Buffer Size の項目でおこないます。



*Windows 環境では Samples Per Bufferの項目で設定をします。



サンプリングレート設定

Cubase / Nuendo では、サンプリングレートの設定は、プロジェクトの設定でおこないます。

プロジェクト>プロジェクト設定…

プロジェクト	Audio	MIDI	スコア	X	ディア
トラックを追	自力口			•	
トラックを養	製				$\bigcirc \bigcirc$
選択トラック	を削除				
空のトラック	を削除			0	
トラックの折	fりたたみ			•	1
プール			æ	Ρ	
マーカー			æ	М	
テンポトラッ	ウ		H	т	
ブラウザー			*	B	
オートメーシ	ノョンパネノ	L		F6	
テンポの計算	I				
テンポの検出	4				
ノートパッド	:				
コードトラッ	ウ			•	
プロジェクト	設定		仓	S	
カーソル位置	でタイム	コードを	E設定		
オートフェー	・ド設定				
				-	

プロジェクト設定画面のサンプリングレートの項目で設定します。

プロ	ロジェクト設定
	著作者
0:00:00:00	開始
30 fps 🗸	フレームレート ビデオから取得
小節/拍	表示の単位 表示オフセット
1	小節数オフセット
44.100 kHz 💌	サンプリングレート ビット解像度
Wave ファイル 均等パワー	録音ファイル形式 パンニングのレベル補正
+6 dB	最大ボリューム
tal ▼	HMTタイプ HMTデブス
?	キャンセル OK

デフォルトの出力設定

設定 > VST コネクション



VST コネクションの出力画面のアウトプットの項目で、デフォルトの出力を設定します。



入出力の表記と設定について

Cubase / Nuendo では、オーディオバスの設定を予め設定しておく必要があります。

設定 > VST コネクション

入力と出力の項目で、設定をおこないます。

必要な入出カバスを追加し、メニューから該当する入出力を設定します。

0.0		VS	「コネクション - 入力		
入力	出力	グループ	/FX 外部FX	外部インストゥルメント	スタジオ
	0	/1142 or L	入力パスを追加		
ス名 ● Stereo Ir	構成	スピーカー	バス名		1
-0 左 1	🗘 Stereo	LR	++2	ンセル (c) バスを追加 (a)	
			_		
		50			

通常、Cubaseのトラック上では、入出力はバス名で表示されますので、必要に応じてバス名を変更しておくことで、より快適に

MOTU オーディオインターフェイスの入出力ポートにアクセスできます。

入力	in the second se	出力	パループ/FX	外部FX	外部インストゥルメント	スタジオ
∃⊟ すべて	パスを追加	プリセット -	• # B			
バス名	スピーカー	オーディオデバイス	デバイスポート			
🗸 🏟 Stereo In	Stereo	MOTU 828mk3	4			
• 左			Mic/Instrument 1			
0 右			Mic/Instrument 2			
	Stereo	MOTU 828mk3				
0 左			Analog 1			
0 右			Analog 2			
	Stereo	MOTU 8/28mk3	1.			
o 左			Analog 3			
0 右			Analog 4			
	Stereo	MOTU 828mk3	//			
• 左			Analog 5			
0 右			Analog 6			
	Stereo	MOTU 828mk3				
o 左			Analog 7			
6 右			Analog 8			
	Stereo	MOTU 828mk3	//			
-0 左			Reverb 1			

トラック入出力設定

Cubase / Nuendoのプロジェクト上のオーディオ、AUXまたはソフトウェア音源トラックの入出力の項目で、設定をすることが

できます。



*通常、表記はすべてバス名となります。

ダイレクトモニタリング設定

Cubase /Nuendoのトラック上のモニタリングボタン(スピーカーアイコン)をオフにします。



CueMixの設定に関しましては、このガイドのダイレクトモニターの項目に記載しています。

Apple GarageBand

*このガイドでは GarageBand 09 を例に解説します。

オーディオドライバの設定

デバイスの設定

GarageBand > 環境設定…



環境設定 画面上のオーディオ / MIDIのオーディオ出力とオーディオ入力のメニューリストから、MOTUオーディオインターフェ

イス(モデル名)を選択します。



バッファサイズの設定

次の用途に最適化の項目でおこないます。



サンプリングレート設定

Mac OS X のオーディオ MIDI 設定、または MOTU Audio Setup でおこないます。

General	828mk3	-
Enable Core Audio Ve	olume Controls	
Sample Rate	44100	÷
Clock Source	Internal	÷
Default Stereo Input	Mic/Instrument 1 - 2	÷
Default Stereo Output	Main Out 1 - 2	*
Phones Assign	Main Out 1 - 2	÷
Optical Input Bank A	ADAT Optical	÷
Optical Output Bank A	ADAT Optical	-
Optical Input Bank B	ADAT Optical	÷
Optical Output Bank B	ADAT Optical	÷

MOTU Audio Setup は Macintosh HD > アプリケーション フォルダ内にインストールされています。(通常、MOTU オーディオ

インターフェイスを接続すると自動で起動します。

Audio MIDI 設定は、Macintosh HD > アプリケーション > ユーティリティ フォルダ内にシステム標準でインストールされてい

ます。

入出力の表記について

GarageBandでは、入力は純粋にモノ1(オーディオインターフェイスのモデル名)、モノ2(モデル名)、ステレオ1/2、ス

テレオ 3/4 … と表示します。

出力の設定は、Mac OS Xのオーディオ MIDI 設定または MOTU Audio Console で設定します。

Default Stereo Output の項目で設定したポートが GarageBand でのオーディオ出力となります。

Enable Core Audio Vo	olume Controls	
Sample Rate	44100	\$
lock Source	Internal	\$
efault Stereo Input	Mic/Instrument 1 - 2	\$
Default Stereo Output	Main Out 1 - 2	\$
Phones Assign	Main Out 1 - 2	\$
Optical Input Bank A	ADAT Optical	\$
Optical Output Bank A	ADAT Optical	\$
Optical Input Bank B	ADAT Optical	\$
Optical Output Bank B	ADAT Optical	\$
Main Out Assign	Main Out 1-2	\$
Return Assign	Main Out 1-2	\$

多くの MOTU オーディオインターフェイスでは、メイン出力がアナログ出力の後に設定されています。例えば、アナログ出力が 8つ装備されている 828mk3の場合、メイン出力は 9-10 となっています。ただし、この関係はご利用環境によって異なるケー スがあるため、次の方法で確認をします。

MOTU 0000 SOLO DSP LEVEL OUTPUTS INPUTS MIXES T 7.1 U 1-2 S METERS REVERB FOCUS PAN (1) WIDTH (2) BAL (2) WIDTH (5) BAL (2) -0.42 -4.5 dB -11.2 dB -16.5 dB 0.0 dB -10.8 dB -6.4 dB -10.2 dB -8.3 dB

CueMix FX ソフトウェアを起動し、画面右側の METERS タブをクリックして、すべての入出力のレベルメーターを表示します。

GarageBandのデモソングを開き、再生をして出力の信号レベルをCueMix FXのレベルメーターで確認します。MAINのメーターが 振れた箇所が、メイン出力の GarageBand 上での出力チャンネルになります。

入力に関しまして、一部のモデルでは、マイク/楽器入力とアナログライン入力が別に用意されています。例えば、828mk3では、

最初の2つの入力が MIC/楽器入力で、アナログライン入力1~8は Live 上では3~10 となり、その後デジタル入力などが続き

ます。Track 16 では最初の2つがマイク入力、3/4が楽器入力、アナログライン入力は5/6 となります。

GarageBandのオーディオトラックのモニター(スピーカーアイコン)ボタンを有効にして、実際に信号の入力とGarageBand

上のトラックの入力設定を切替えながら、GarageBandのトラックのレベルメーターで確認をします。

トラック入力設定

オーディオトラックのトラック情報(リアル音源)のブラウズ表示下の入力源の項目で、リストから選択します。



ダイレクトモニタリング設定

オーディオトラックのトラック情報(リアル音源)のブラウズ表示下の入力源のモニタの項目を切に設定します。



CueMixの設定に関しましては、このガイドのダイレクトモニターの項目に記載しています。

Cakewalk Sonar

*このガイドでは Sonar X1 を例に解説します。

オーディオドライバの設定

デバイスの設定

編集 > 環境設定…



環境設定 画面上のオーディオオプションの項目で、ドライバーモードで、ASIOを選択します。

環境設定	×
オーディオ・	録音、再生のオプション
デバイスの選択 デバイスの設定 オプション 設定ファイル 同期とキャッシュ MIDI デバイスの選択 インストゥルメント定義	 ドライバモード(D): ASIO ディザリング(D): Triangular 「バックグラウンド時(にドライバを解放する(S) マ マルチプロセッサの処理を有効にする(G) マ MMCSSを使用する(M) (Windows Vista - Win 7) 「停止後でもエフェクト者を再生する(F) マ 常にすべてのデバイスをオープンする(P) 一録音時にDCオフセットを除去(C) □ 示サロハッゴレモニトを使わります。
コントロールサーフェス 録音/再生 ファイル 保存フォルダの指定 オーディオデータ VSTプラグイン 初期化ファイル 詳細 カスタマイズ 表示 配色	1 再生中1ンフットモターを無效にする オーディションタイム(A) [sec]: 3 録音用ファイル領域の確保 [sec]: 0 :演奏開始時(こフェードイン(E) [msec]: 0 :演奏停止時(こフェードアウト(N) [msec]: 0
○ 簡易表示(B)	定(D) OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

次に同期とキャッシュの項目で、デバイスから MOTU Audio ASIO を選択します。



必要に応じて、デバイス設定の項目で、録音と再生マスターとなるポートを設定します。

莱琪 設定	
オーディオ	使用するデバイスの設定
デバイスの選択	再生タイミングマスタ(P): 1: MOTU Audio ASIO Main Out 1-2 ▼
デバイスの設定	録音タイミングマスタ(R): 1: MOTU Audio ASIO Analog 1
オプション	オーディオデバイスのドット集体(T): 24
設定ファイル	
同期とキャッシュ	A DUNNY_PRACECCY UDB center, sin/cos taper, constant power
MIDI	
デバイスの選択	新規プロジェクトの初期設定
インストゥルメント定義	サンプリングレート(S): 44100 💌
コントロールサーフェス	ミキシングレイテンシ
録音/再生	再生バッファ数(F): 2
ファイル	パッファサイズ(Z):
保存フォルダの指定	小(応答速度重視) 大(安定性重視) 982 msec
オーディオデータ	UT JUJ (44kHz/stereo)
VSTプラグイン	
初期化ファイル	ASIOのレイナンジ: (ハッファおよびハードウエアのレイナンジを含みます) 入力: 24.5 more 1081 samples
112	出力: 46.8 msec, 2066 samples
カフタマイズ	(入出力合計): 71.4 msec, 3147 samples
表示	
12小	

また、デバイス選択の箇所で、必要なオーディオ入出カポートを有効または無効にします。

オーディオー	▲ 入力/出力デバイスの選択	
デバイスの選択	使用するデバイスを選択します。	
デバイスの設定	フレンドリネームをクリックして編集します。 入力デバイス(1)	
オプション	フレンドリネーム	デバイス名
設定ファイル	MOTU Audio ASIO Analog 1	MOTU Audio ASIO Analog 1
EXCEPTION	MOTU Audio ASIO Analog 3	MOTU Audio ASIO Analog 3
同期とキャッシュ	MOTU Audio ASIO Analog 5	MOTU Audio ASIO Analog 5
AIDI	MOTU Audio ASIO Analog 7	MOTU Audio ASIO Analog 7
	MOTU Audio ASIO AES/EBU 1	MOTU Audio ASIO AES/EBU 1
デバイスの選択	MOTU Audio ASIO S/PDIF 1	MOTU Audio ASIO S/PDIF 1
インストゥルメント定義	MOTU Audio ASIO ADAT Optical A 1	MOTU Audio ASIO ADAT Optical A 1
コントロールサーフェス	サカデバイス(0)	
録音/再生		
7-7-1		MOTU AND ASIO Main Ord 1.2
15116	MOTU Audio ASIO Main Out 1-2	MOTU Audio ASIO Main Out 1-2
保存フォルダの指定	MOTO Audio ASIO Analog 1-2	MOTU Audio ASIO Analog 1-2

バッファサイズの設定

デバイス項目の画面内の ASIO パネルボタンを押して、MOTU Audio Consoleの画面の Buffer Size の項目でおこないます。

環境設定		×
オーディオ	▲ 使用するデバイスの設定	
デバイスの選択	再生タイミングマスタ(P): 1: MOTU Audio ASIO Main Out 1-2 ▼	
デバイスの設定	録音タイミングマスタ(R): 1: MOTU Audio ASIO Analog 1	
オプション		
設定ファイル		
同期とキャッシュ	ステレオパンニンク語反定(L): 0dB center, sin/cos taper, constant power I	
MIDI		
デバイスの選択	新規プロジェクトの初期設定	
インストゥルメント定義	サンプリングレート(S): 44100 💌	
コントロールサーフェス	ミキシングレイテンシ	
録音/再生	再生バッファ数(F):	
ファイル	パッファサイズ(Z):23.2 msec 1024 samples	
保存フォルダの指定	小(応答速度重視) 282 mee	
オーディオデータ		
VSTプラガイン		

Samples Per Bufferの項目で設定をします。



サンプリングレート設定

Mac OS X のオーディオ MIDI 設定、または MOTU Audio Setup でおこないます。

Sample Rate:	44100		
Samples Per Buffer:	256		
Master Clock Source:	Internal	I	
Use Stereo Pairs fo Use WaveRT for V	r Windows Audio. Vindows Audio		
Use Stereo Pairs fo Use WaveRT for V Enable Pedal	r Windows Audio. Vindows Audio		
Use Stereo Pairs fo Use WaveRT for V Enable Pedal Pedal Down:	r Windows Audio. Vindows Audio Set		

トラック入出力設定

Sonarのプロジェクト上のオーディオ、AUX またはソフトウェアシンセサイザートラックの入出力の項目で、設定をすることが

できます。



ダイレクトモニタリング設定

Sonar のトラック上のモニタリングボタン(スピーカーアイコン)をオフにします。また、画面上部のインプットモニターボ

タン(スピーカーアイコン)をオフにします。



CueMixの設定に関しましては、このガイドのダイレクトモニターの項目に記載しています。

Internet Singer Song Writer

*このガイドでは Singer Song Writer 10 Professional を例に解説します。

オーディオドライバの設定

デバイスの設定

設定 > オーディオポートの設定…



画面上のドライバの項目で、ASIO ドライバを選択し、メニューから MOTU Audio ASIO を選択します。



必要に応じて、出カポートと入カポートを有効にします。Singer Song Writer では最大8ステレオの入出力を扱えます。

バッファサイズの設定

デバイス項目の画面内の ASIO パネルボタンを押して、MOTU Audio Consoleの画面の Buffer Size の項目でおこないます。

: Man Out 1-2 1 & 2 ・ 1: Analog : 設定なし ・ 設定なし ・ 2: 設定なし : 設定なし ・ 3: 設定なし	, T
: i設定なし · 2: i設定ない · 2: i設定ない · 3: i設定ない · 3: i設定ない	
: 設定なし 3: 設定なし	1004
	, T
: 設定なし · · 設定なし · · · 設定なし	,
: 設定なし 5 : 設定ない	, 💽
: 設定なし 💽 6: 設定ない	, 💌
: 設定なし 7: 設定ない	
: [設定なし 3: [設定なし	, <u> </u>

Samples Per Bufferの項目で設定をします。

Sample Rate:	44100		J
Samples Per Buffer:	256		
Master Clock Source:	Internal	2	J
🗖 Use Stereo Pairs for	Windows Audio.		
Use WaveRT for W	ndows Audio		
🗖 Enable Pedal			
Pedal Down:	iet		
Pedal Up:	iet		

サンプリングレート設定

オーディオポートの設定画面内、オーディオフォーマットの項目のメニューまたは、MOTU Audio Consoleの画面の Sample Rate

の項目でおこないます。

オーディボートの設定			×
「ドライバー C Windowsドライバ			
• ASIOドライバ MO	TU Audio ASIO [ASIO]	•	
	Former		
1: Main Out 1-2 1 & 2	<u> </u>	1: Analog 1 1 & 2	
2: 設定なし	•	2: 設定なし	•
3: 設定なし	•	3: 設定なし	•
4: 設定なし	•	4: 設定なし	
5: 設定なし	•	5: 設定なし	•
6: 設定なし	•	6: 設定なし	
7: 設定なし	•	7: 設定なし	•
8: 設定なし	•	8: 設定なし	•
オーディオフォーマット:	32Bit 44100Hz STERE		
クロック・	Internal		n. 1
	anoma		
	ОК	キャンセル	



入出力の表記について

Singer Song Writer のトラックの入出力の表記は、Input 1、Input 2... Output 1、Output 2...と表示します。

これらの入出力が実際に MOTU オーディオインターフェイスのどの入力または出力ポートに相当するかは、オーディオポート

の設定の出力ポートおよび入力ポートの項目で設定と確認ができます。

出力:	*	- гл	カポート		
: [Main Out 1–2 1 & 2 💌	1:	Analog 1 1 & 2		
: [設定なし	2:	設定なし		
: [設定なし	3:	設定なし	•	
[設定なし 🗾	4:	設定なし	•	
: [設定なし 🗾	5:	設定なし	-	
: [設定なし	6:	設定なし	•	
: [設定なし ご	7:	設定なし	-	
: [設定なし 👤	8:	設定なし	•	

トラック入出力設定

Singer Song Wirter のプロジェクト上のオーディオ、AUX またはソフトウェア音源トラックの入出力(INPUT と OUTPUT)の

項目で、設定をすることができます。



ダイレクトモニタリング設定

Singer Song Writer では、基本ハードウェアのダイレクトモニタリング機能を利用するように設計されています。

従いまして、モニタースイッチや設定はございませんので、通常、CueMix側の設定のみとなります。

CueMixの設定に関しましては、このガイドのダイレクトモニターの項目に記載しています。

Singer Song Writer上でモニター設定をされる場合は、Singer Song Writerのマニュアルもしくはヘルプをご参照ください。

Presonus Studio One

*このガイドでは Studio One 2 (Mac 版)を例に解説します。

オーディオドライバの設定

デバイスの設定

Studio One > 環境設定…



環境設定のオーディオ設定画面のオーディオデバイスの項目から MOTU オーディオインターフェイス(のモデル名)を選択し

ます。Windows 環境では MOTU Audio ASIO を選択します。



バッファサイズの設定

デバイスブロックサイズの項目でおこないます。



サンプリングレート設定

Studio Oneのサンプルレート設定は、ソング設定画面でおこないます。

ソング > ソング設定…



一般画面のサンプルレートの項目で設定をします。



入出力の表記と設定について

ソング > ソング設定…

入力と出力の項目で、設定をおこないます。

必要な入出カバスを追加し、メニューから該当する入出力を設定します。

Ω -*	注 メタ情報 オーディオルO設定	
入力 出力 MOTU 896mk3 Hybrid	$\frac{2}{3} - \frac{1}{2} \frac{1}{3} \frac{1}{3} \frac{1}{3} \frac{1}{3} \frac{1}{5} \frac{1}{6} \frac{1}{7} \frac{1}{8} \frac{1}{9} \frac{1}{10} \frac$	
デフォルトを作成		
オプション	ング設定 適用 キャンセル OK	

Studio One では、入出力は純粋に Input 1、Input 2、Output 1-2、Output 3-4… と表示します。

多くの MOTU オーディオインターフェイスでは、メイン出力がアナログ出力の後に設定されています。例えば、アナログ出力が

8つ装備されている828mk3の場合、メイン出力は9-10となっています。ただし、この関係はご利用環境によって異なるケー

スがあるため、次の方法で確認をします。

CueMix FX ソフトウェアを起動し、画面右側の METERS タブをクリックして、すべての入出力のレベルメーターを表示します。



Studio One にオーディオトラックを1つ追加して、オーディオファイルを用意して、CueMix FX のレベルメーターで確認しなが ら、オーディオ再生をしてトラックの出力設定を変えていきます。MAINのメーターが振れた箇所が、メイン出力の出力チャン ネルになります。

入力に関しまして、一部のモデルでは、マイク/楽器入力とアナログライン入力が別に用意されています。例えば、828mk3では、 最初の2つの入力が MIC/楽器入力で、アナログライン入力1~8は Live 上では3~10 となり、その後デジタル入力などが続き ます。Track 16 では最初の2つがマイク入力、3と4が楽器入力、アナログライン入力は5と6 となります。

トラック入出力設定

Studio One のコンソール画面の各トラックの入出力の項目で、設定をすることができます。

トラック入力は、シーケンス画面上のオーディオトラック上で設定できます。



ダイレクトモニタリング設定

Studio One のトラック上のモニタリングボタン(スピーカーアイコン)をオフにします。



CueMixの設定に関しましては、このガイドのダイレクトモニターの項目に記載しています。